

領域立ち上げまでの経緯

●2007.4-12: 75名の外部有識者にインタビュー

●2007.12-08.3: ワークショップ2回(12/12、3/3)、
さらに、具体化WG(1/24)、人文社会科学WG
(2/13)、女性の視点WG(2/22)を各1回開催

●2008.3.10: 当センター主催「第7回社会技術
フォーラム」を通じたより広い関与者との意見交換

●2008.3.24: センター運営協議会による承認

●2008.4: 領域発足、4.17 公募開始

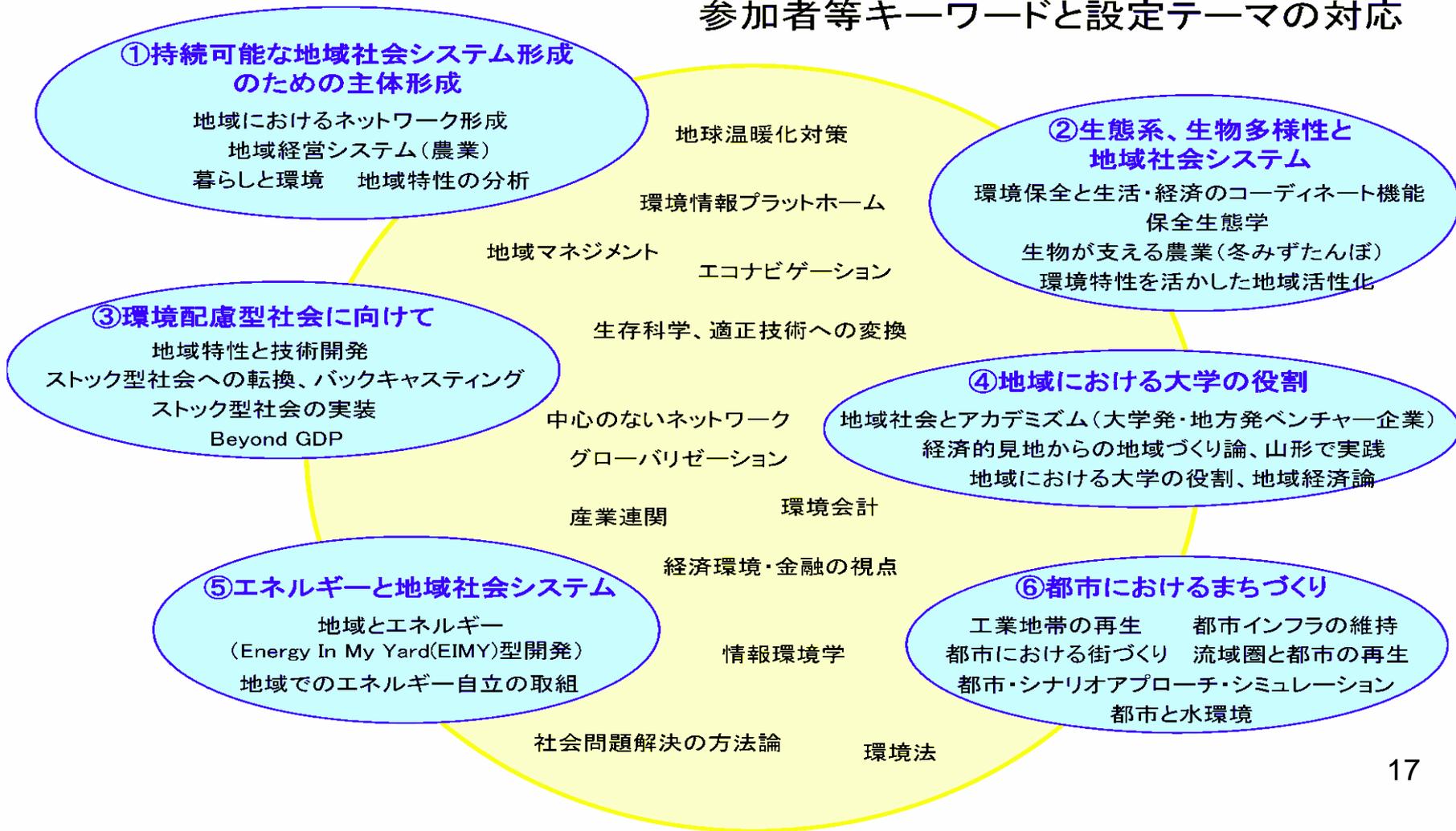
●2008.8: 第1回公募プロジェクト採択

関与者ワークショップ

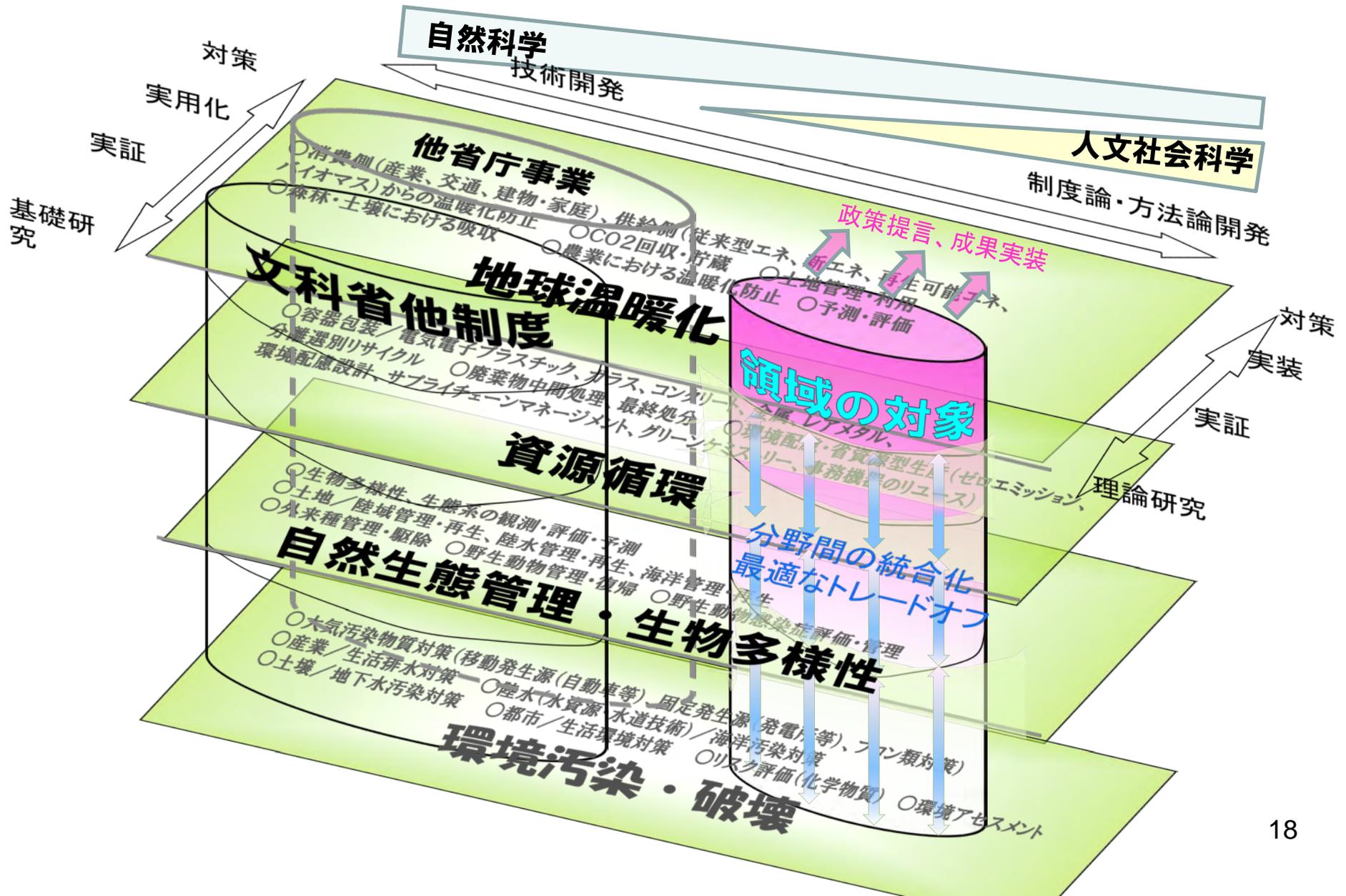
主要6課題抽出。研究サイド・現場サイドより発表いただき議論

現領域総括が座長を務めた

参加者等キーワードと設定テーマの対応



領域の対象と必要性の明確化



研究開発公募の枠組み

研究開発領域

領域総括

領域アドバイザー

規模:6年 20億円程度

目標

- (1) 地域に根ざした脱温暖化・環境共生に関わる研究開発の構想とその実現/国内外における成果の有効活用のための一般化、体系化。
- (2) 脱温暖化・環境共生に着目した、既存の取組等の科学的な整理分析/地域の新しい価値や可能性を見出すための計画・実践手法、新しい評価手法等の開発。

研究開発プログラム「地域に根ざした脱温暖化・環境共生社会」

研究開発体制:大学、自治体、NPO、企業等の連携

研究開発プロジェクト

公募により研究開発を実施

研究期間:3~5年

カテゴリーII

技術(システム)・手法の開発と実証(PDCAサイクルを最低一回)

研究開発費:年間10~30百万円

カテゴリーI

調査研究等を行い、選択肢の提示、政策提言等

研究開発費:年間数百万円

連携